

# ミャンマー軍が難民に発砲

## 取り囲み13人死亡か 乱射？

【ニューデリー11日】長た、一部の新聞は死者十五人と報じた。

昨年末から急増したミャンマーからバングラへの難民は十二万人近くに達しており、事件の翌二十九日にも、一万人が越境した模様

「去年までは老人や女性、子供が多かったのに、最近では難民の中に若者が増えてきた」（西側外交筋）という。

欧州共同体（EC）はすでに、五十万ECU（欧州通貨単位）の拠出を表明。英国やカナダも財政支援に乗り出している。国際赤字の職員も現地入りした。

ミャンマーの軍政権は分離独立を求めるカチン、カレン、シャン州の少数民族ゲリラを各個撃破の形で掃討し、昨年後半からは西部のイスラム系ロヒンギャ族（人口二百万—三百万人）のゲリラに対する攻勢

を強めていた。

特に、ロヒンギャ族が他の少数民族との共同作戦に踏み込んだ形跡があることに神経をとがらせている、との見方が有力だ。

昨年十二月の国境地帯でのミャンマー軍とバングラ軍との衝突も、ロヒンギャ族ゲリラを深追いした結果起きた偶発的なものといわれている。

また、ミャンマー軍がこ

「三年間に二十万人から三十万人規模に膨張し、軍備増強を続けていることも、バングラ側の警戒感を強めている。」



岡昇 バングラデシュ国境に近いミャンマー西部アラカン地方で先月二十八日、バングラ側に逃れようとしたイスラム系住民に対してミャンマー軍が発砲し、少なくとも十三人が死亡した模様だ。昨年末から急増したミャンマーからバングラへの難民流入は、全体で十二万人に達しており、ミャンマー軍の住民迫害に対し、国際的な非難が強まりそだ。

バングラデシュのUNB通信などによると、イスラム系住民への発砲事件があったのは、ミャンマー西部のモーンド地区のアミナバザール村。国境地帯の難民たちの証言によると、ミャンマー軍部隊は、バングラ側に向かおうとするロヒンギャ族住民の一部を進行して並ばせ、一斉に銃撃したという。取り囲んで銃を乱射したとの証言もある。ま